

令和7年度 佐賀県立視覚障害者情報・交流センター 事業実績報告書

1. 基本方針

昭和47年の開館以来、当センターは、県下唯一の視覚障害者の情報提供施設として、福祉・文化活動の拠点として重要な役割を果たしてきました。

開館以来の伝統を引き継ぐとともに、相談支援事業、交流イベント開催や啓発活動を積極的に行うなど新たな方向性をめざし、利用者である県下の視覚障害者に対するサービスの向上に努めてきました。

2. 利用者サービス

利用者から高い評価と信頼を受けている巡回貸出制度については、新規の利用者などもあり継続につとめました。施設のPRと交流を目的とした「あいさが あすなるフェスタ」を開催し、視覚障害者だけでなく事業者や一般の方々にも大勢参加していただきました。

利用者はもとより、視覚障害以外の理由による利用対象者や関係者からの相談も増加しており、就労や育児、余暇についてなど読書以外の相談にも対応したほか、スマートフォンなどのICTに関する相談にも多く対応しました。デジタル情報の入手活用手段は変化し続けており、その変化に対応できない方やアナログでの情報を必要とする利用者もいることを認識し、今後もサポートを継続していく必要があります。

3. 職員の資質

相談支援の専任職員を一名、貸出と情報支援に職員二名、職員の定年により新たに音訳指導員一名を配置し、多様な利用者のニーズに対応してきました。また、職員の資質の向上を図るため、研修会等に積極的に参加してきました。更に、機器の情報や利用者からのニーズについて随時情報伝達・情報交換を行なう等、サービスの質の向上や課題解決に努めました。

4. 地域との関係

施設の周知及び啓発、利用者との交流を目的とした「あいさが あすなるフェスタ」を開催し、地域の方を含む延べ189名に会場していただきました。また8月の夏休み期間に児童を対象とした「オープンブレイクライブラリー」を開催し、点字体験や録音体験を通してボランティアと交流するなど、参加者34名が視覚障害者等の読書について知る機会となりました。また、来館が容易ではない地域の方々へ向けた対応として、センターから離れた地域などで相談会を開催（唐津市、鳥栖市、神埼市）、読書バリアフリーサービスの周知を目的に県内21か所の公立図書館に啓発訪問したほか、公立図書館や学校からの見学の随時受け入れ、要請に応じた機器の貸し出しなどを行い、地域との関わりを積極的に持ってきました。

【業務の概要】

I. センターの運営に関する業務

1. 点字刊行物及び録音図書（CD図書）の製作及び刊行並びに受入

(1) 点訳図書・音訳図書の製作及び整備、受入れ

	点 訳 図 書	CD 図 書	MMD・TD
自館製作	104タイトル・356巻	76タイトル・枚	0タイトル・枚
厚生労働省委託	33タイトル・76巻	27タイトル・枚	9タイトル・枚
購入・寄贈	6タイトル・8巻	5タイトル・枚	1タイトル・枚
合 計	143タイトル・440巻	108タイトル・枚	10タイトル・枚

※MMD・TD…マルチメディアデイジー・テキストデイジー

(参考) 令和6年度点訳図書・音訳図書受入

	点 訳 図 書	CD 図 書	MMD・TD
自館製作	73タイトル・249巻	57タイトル・枚	0タイトル・枚
厚生労働省委託	29タイトル・64巻	27タイトル・枚	13タイトル・枚
購入・寄贈	5タイトル・5巻	8タイトル・枚	2タイトル・枚
合 計	107タイトル・318巻	92タイトル・枚	15タイトル・枚

(2) 「県民だより」等の音訳版製作（提案型事業）

- ① 県民だより：68部12回
- ② 県議会だより：68部4回
- ③ 障害者ハンドブック：200部

(3) 「JBニュース」点字版製作及び配信（提案型事業）

年間240回 毎回24部を製作・送付、毎回7ヶ所に配信

- ##### (4) 大活字本、LLブック、布絵本等視覚障害者等が利用しやすい書籍の整備、展示
- 点字付き絵本及び触る絵本の展示・貸出件数（3件）
大活字本の寄贈受入れ・23件

2. 点字図書等に関する各種サービスの提供

(1) 広報誌「センター通信」の発行（年6回）

点字版349部、音声版870部、墨字版197部

(2) レファレンスサービス（図書の検索・紹介、資料の提供等）

年間受付 719件（図書：261件、IT：124件、その他：334件）
（令和6年度：680件 図書：364件、IT：69件、その他：247件）

(3) プライベートサービス（視覚障がい者が必要とする資料の点字化・録音化、その他）

点訳 19件、音訳 4件

(4) 対面朗読サービス（視覚障がい者が必要とする資料の対面読み上げ）19件

3. 情報通信技術に対する対応支援

- (1) デイジー再生機の取扱い説明、機器の貸出し
プレクストークの貸出し及び貸出時等の取扱い説明（10件）
- (2) 情報通信技術に関する活用体験会の開催及び相談援助（292回）
- (3) 視覚障害者情報総合ネットワーク「サピエ」の利用説明及び登録利用の支援（3名）

4. 日常生活用具等の利用促進

センターの備品として新たに日常生活用具、補装具や便利グッズを購入し、館内で展示コーナーを設置しました。所蔵する用具について毎回センター通信で紹介文を掲載し、利用者に周知しています。また、センターの廊下にピックアップコーナーをつくり、分類別の用具を月替わりで展示するなど、来館者の目に付きやすくなるような工夫をしています。

5. 点訳奉仕者及び音訳奉仕者の養成研修の実施

- (1) 点訳奉仕者の養成講習会（年24回 参加者のべ155名 修了者 6名）
（令和6年度 参加者のべ308名 修了者 11名）
- (2) 音訳奉仕者の養成講習会（年24回 参加者のべ192名 修了者 8名）
（令和6年度 参加者のべ329名 修了者 14名）
- (3) 点訳・音訳奉仕員の認証（点訳4名、音訳3名）
- (4) 点訳・音訳奉仕者の研修及び活動の支援
 - ① ボランティアがグループで定期的な研修を行っており、職員はその活動の支援を行ったり、ボランティアからの個別の相談等にも随時対応している。
 - 点訳・・・ 花水木の会（第2火曜日）
対面校正（毎週火曜日・金曜日）
 - 音訳・・・ くすのきの会（第1・第3木曜日）
にじいろの会（第2木曜日）
ひまわりの会（第4木曜日）
 - ② あいさが点訳音訳友の会の研修及び活動の支援
 - 音訳・・・ 友の会主催の講習会（外部講師）の実施支援（1月 参加者27名）
 - 合同・・・ 友の会主催の講習会（外部講師）の実施支援（3月 参加者48名）

6. 交流・啓発事業

交流スペースや研修室を活用し、利用者を対象とした「サロン」を毎月開催しました。防災や心肺蘇生についての講座や、園芸やアロマづくりなどの体験、また交流を主目的とした茶話会、点訳音訳ボランティアとの交流会などの内容で、利用者から好評をいただきました。11月には「あいさが あすなるフェスタ」を開催し、防災スリッパ作り、大声コンテスト、防災朗読劇、中学生による飲み物販売、就労継続支援事業所の販売ブースの設置、利用者によるハンドメイド作品販売、非常食販売、楽器演奏、県内事業者による日常生活用具等の展示相談、利用者団体によるワンコインマッサージなどを行いました。参加者はのべ189名となり、利用者や家族、関係者のほか一般の方々も多数来場されました。

7. 相談支援事業

常勤の相談支援担当の職員を一名配置したほか、業務の一部をたかだ電動機株式会社に委託し、相談等に対応する職員を最大7名派遣されています。来館や電話などの相談に随時対応しており、相談内容は障害のことや学習、就労、ICT等多岐にわたります。当事者のみならず、家族や支援者からの相談にも対応しています。また、センターから離れた地域での出張相談会（唐津市、鳥栖市、神崎市）を開催し、遠方の当事者や支援者に向けた相談対応や情報提供を行いました。また、スマートサイト研修会の名称をあいサポネット研修と改め年間2回（9月、2月）開催しました。当事者団体、医療機関、行政機関、事業者、支援団体などに参加いただき、また9月の研修においては一般からも多くの方の来場があり情報収集、情報共有の有意義な機会となりました。

8. ICT等を活用したコミュニケーション支援

相談支援担当を始めとした職員が電話及び来館でのICTに関する相談に随時対応しました。職員は情報化対応支援者研修などに参加し、ICTに関する知識の習得に努めたほか、タブレットやスマートフォン、携帯用小型読書器を展示し、利用者や関係者が端末に触ったり体験ができるような環境を整備しました。

また、2月のスマートサイト研修では職員を講師とした視覚障害者のスマートフォン活用についての研修を実施しました。盲学校、ICTサポート団体、行政機関など18名の方に参加していただき、好評をいただきました。

9. 利用拡大プロジェクト

新たな利用対象者等へ向けて音声版の利用案内及び施設のPR動画を作成し、ホームページ等に掲載しました。また、市役所及び町役場や地域包括支援センターなどに啓発活動を行うことで、センターのサービスの周知を図りました。読書バリアフリーサービスについて理解を深めてもらうよう公立図書館へも啓発を行ったほか、読書バリアフリーコーナー用の備品及びマルチメディアデジタイズ図書などを公立図書館へ貸し出すサービスを実施しました。月に一度の「サロン」ではアロマづくり体験やボランティアとの交流会、芸術鑑賞や筋力測定、巡回聴こえの相談や園芸体験など利用者の日常生活に関わる講座を開催しました。

10. その他の事業

センターホームページの定期的なリニューアル更新のほか、SNSアカウントから情報の提供を行い、利用者への情報発信及びボランティアへの情報発信を行いました。また、防災グッズの展示のほか、視覚障害者等へ向け防災をテーマとしたサロンを開催するなどして、災害に関する情報支援を行いました。12月の災害対応訓練では、隣接する六星館と合同で成章中学校への避難訓練を行い、六星館の利用者の誘導など、災害時の支援の訓練を行いました。

11. たかだ電動機株式会社へ委託する業務

(1) 補装具・日常生活用具等の給付申請の支援

「補装具・日常生活用具」の相談者（107名）には、センター内に展示している物品に関しては実際に使用いただき、購入先や購入時の金額をお伝えしました。申請する希望のある方には、メガネのヨネザワや日本点字図書館等、指定販売者を紹介し、自分で連絡するのが難しい方には連絡の代行を行いました。またセンター通信において日常生活用具等のピックアップ記事を掲載し、情報提供をしました。

(2) 日常生活用具等の情報提供・使い方の支援

展示用の日常生活用具等の選定及び購入 200種（内訳：白杖9、眼鏡8、ルーペ15、音声機器14、ICT機器6、文書読み上げレコーダー2、ロービジョン筆記用具13、音声・触知式時計11、日用品23、おもちゃ9、絵本3、調理器具12、防災関連6、マルチメディアデイスリー10、点字器4、拡大読書器3、スポーツ6、点字ブロック6、寄贈品27、その他（車椅子等）15）。

(3) 交流・啓発イベントの開催

(4) 交流スペース等を活用した利用者及び関係者の交流支援

交流啓発サロンの開催（年11回 参加者のべ122名）

「あいさが あすなろフェスタ」の企画開催 11月16日 参加者のべ189名
参加団体：あいさが音訳点訳友の会、メガネのヨネザワ、佐賀県防災士会、佐賀大学理工学部、シグマ、うぐいすの会、きらきらアンサンブル、心眼ハートあいず、システムギアビジョン、バンデ、日々カフェ、神埼清明高校、佐賀女子短期大学、佐賀県聴覚障害者協会、朗読ボランティアすみれ、佐賀農業高校オカリナ吹奏楽部、佐賀市男女共働参画課、佐賀市立成章中学校、佐賀県視覚障害者団体連合会、（順不同）

スマートサイト研修会（あいサポネット研修会）の開催

第一回 9月14日（日） 参加者86名

第二回 2月11日（水） 参加者18名（オンライン9名）

(5) 相談対応補助

相談支援対応 のべ1,001名

(1) 対応方法

来館144件、電話837件、訪問8件、メール1件

(2) 相談者について

相談者の属性：視覚障害等当事者702件、家族24件、行政機関33件、福祉・介護等支援機関217件、その他12件

(3) 相談内容

補装具・日常生活用具107件、視覚リハ（訓練事業への相談）131件、仕事21件、余暇16件、ICT292件、生活情報268件、サービス利用・制度86件、健康・病院16件、園・学校14件、子育て・育児2件、不安・気持ちの整理27件、その他9件

(4) 相談経路

機関からの紹介27件、知人からの紹介4件、チラシ1件、メディア広報1件、ホームページ・SNS9件、その他4件

(5) 連携先 33件（内訳：支援施設関係7件、用具業者20件、行政関係2件、そ

の他4件)

(6) 相談時間帯

午前135件 午後188件 時間外1件

(6) 支援に必要な情報の収集及び関係者間の情報共有ネットワークの形成

(7) 関係機関を通じて利用対象者へセンターのサービス等をPR

令和7年度は、啓発として92か所へ訪問して啓発活動を行いました。(内訳：行政関係21件、出張相談会4件、あすなろフェスタチラシ配布先67件)

(8) ICT等の活用をテーマとした講座の開催

2月のスマートサイト研修において「あいサポネット研修」として視覚障害者のICT活用をテーマとした研修を開催しました。

研修では、当事者や支援者が講師となって視覚障害者のスマートフォンの活用について説明や意見交換を行いました。支援機関、行政機関、盲学校職員等18名の参加がありました。

(9) センターホームページの定期的な更新及びSNSを活用した情報発信

ホームページにサロンの開催予定を載せるなどして、定期的な情報発信を行ったほか、センターホームページにリンクさせ、今年度は行事案内をFacebookで26回発信しました。

(10) 視覚障害者等へ災害時の行政サービス及び情報提供に対する支援

災害時の備えを進めるため、佐賀県防災士会に協力を依頼し、交流サロンで「防災～ハテナを解決しよう～」を実施しました。今回はハザードマップや枕元の防災(備え)について学んだり、佐賀における南海トラフ地震の影響について防災士の方のお話を聞くなどしました。

また、11月のあいさがあすなろフェスタでは「防災チャレンジデー」をテーマとし、防災クイズセミナー、大声コンテスト、防災リュック・防災スリッパ作り体験、防災朗読劇、非常食販売など防災にまつわる体験やブースなどを展開しました。来場者に改めて防災について考えていただく機会としました。

II. センターの利用に関する業務

1. 利用者の登録、サピエへの登録支援

利用登録者数：414名(6年度410名)、新規登録 18名

サピエ登録者：153名(6年度154名)、新規登録 3名

センター利用者：5,276名(6年度：5,388名 5年度：5,132名)

2. 図書の貸出・閲覧サービス

(1) 点訳図書・テープ図書・CD図書の貸出し(カッコ内は6年度)

単位：タイトル

	点訳図書	テープ図書	CD図書	MMD
巡回	150(193)	11(11)	1,372(1,431)	0(0)

郵送	738 (727)	22 (24)	8,340 (8,865)	19 (21)
館内	59 (8)	0 (0)	615 (240)	0 (0)
相互貸借	129 (157)	8 (7)	770 (981)	0 (1)
その他	85 (85)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
合計	1,161 (1,170)	41 (42)	11,097 (11,517)	19 (22)

※MMD…マルチメディアデイジー

(参考) 令和7年度サピエ登録利用者のデータのダウンロード集計 (カッコ内は6年度)

データ種別	実利用者数	のべ利用者数	ダウンロードタイトル数
点字	32人 (25人)	3,178人 (3,735人)	2,589タイトル (3,187タイトル)
デイジー	92人 (87人)	32,657人 (21,236人)	10,247タイトル (7,929タイトル)
	再生実利用者数	再生のべ利用者数	再生タイトル数
	42人 (43人)	4,222人 (8,479人)	2,565タイトル (3,666タイトル)
MMD	13人 (12人)	36人 (36人)	27タイトル (24タイトル)

(2) 巡回貸出サービス (カッコ内は6年度)

県下4地区に分け年間48回 月平均 合計 30人 (32人) /月

Aコース：鹿島市、小城市、杵島郡、嬉野市方面 6人 (7人) /月

Bコース：唐津市、多久市、小城市方面 8人 (9人) /月

Cコース：佐賀市方面 11人 (11人) /月

Dコース：伊万里市、西松浦郡、武雄市方面 5人 (5人) /月

3. 公共図書館との連携貸出サービス

公共図書館からバリアフリーコーナー貸出に関する相談 2件

バリアフリーサービスに関する公共図書館への啓発訪問 21件

Ⅲ. センターの維持及び管理に関する業務

1. 施設及び備品等の維持及び修繕

2. 清掃業務：日常清掃

3. 委託業務

種別	業務内容	業者	委託料
清掃業務	特別清掃 (年1回) 床のワックスがけ 窓ガラス清掃	(有) オークス	104,500円
	屋外の除草 (年2回)	佐賀市シルバー人材 センター	50,065円

警備業務	機械警備等による施設内の防火、防災、防犯対策	ALSOK佐賀(株)	247,500円
------	------------------------	------------	----------

4. 事業計画及び事業報告書の作成

令和8年3月6日までに次年度事業計画書及び収支予算書を作成し県に提出。
事業年度終了後1ヶ月以内に、事業報告書を作成し県に提出。

5. 防災訓練(9月25日):火災を想定した通報・避難訓練(参加者:職員8名)
(12月24日):大雨による浸水を想定した災害対応訓練(参加者:職員4名)

IV. センターの運営

1. 情報・交流センター運営委員会:運営委員会を2回開催し、意見交換を行いました。

第1回 令和7年8月29日(金) 出席者9名

第2回 令和8年3月27日(金) 出席者9名

2. あいさがあすなろフェスタ(11月):「防災チャレンジデー」をテーマに11月16日に開催しました。大声コンテスト、防災リュック・防災スリッパ作り体験、利用者のオカリナサークル演奏、ボランティアによる民族楽器演奏と読み聞かせ、ハンドメイド作品の販売、ワンコインマッサージ、盲導犬ロボット体験、日常生活用具の展示相談、非常食販売などがありました。(参加者のべ189名)

3. 利用者満足度に関するアンケート調査(12月~1月)

巡回貸出サービスにおける聞き取り調査、及び電話による聞き取り調査を100名の利用者に対して実施しました。集計結果は「センター通信」4月号に添付して、利用者提供しています。

4. 地域社会・学校等への広報・啓発(点訳・音訳の指導、見学受入れ)

6月5日(木) 長与町民生委員見学受入れ(14名)

7月12日(土)・1月25日(日) 佐賀県立図書館見学受け入れ(7名)

7月31日(木) 佐賀県立盲学校見学受入れ(15名)

8月22日(金) 武雄市若木地区社会福祉協議会見学受入れ(27名)

8月27日(水) 佐賀市立成章中学校見学受入れ(16名)

10月1日(水) みやき町社会福祉協議会見学受入れ(9名)

12月16日(火) 勸興小学校見学受入れ(30名)

V. 各種研修会・大会等への参加

1. 九州視覚障害者情報提供施設大会(那覇市、9月) 3名参加
2. 全国視覚障害者情報提供施設大会(大阪府堺市、10月) 1名参加
3. 全国盲人福祉施設大会(金沢市、11月) 1名参加
4. 全視情協録音委員会単独研修会(大阪市、11月) 1名参加
5. 視覚障害者情報総合ネットワーク「サピエ」研修会(オンライン、7月) 4名参加

6. 九州視覚障害者情報提供施設協議会職員研修会（オンライン、8月）2名参加
7. 内部研修
 - 「LDについて ～読書の困り感とサポート方法～」 講師：佐賀整肢学園 百崎尚美氏
(7月) 8名参加
 - 「Android スマートフォンについて」 講師：Google ジャパン 切明政憲氏
(8月) 8名参加

VI. その他

1. 視覚障がい者への施設の提供（佐賀県視覚連の会議及び社会参加推進事業、クラブ活動等）
2. 視覚障がい者支援組織・団体との連携

令和7年度事業に関する自己評価

令和7年度12月から1月に実施した利用者満足度調査の集計結果において、貸し出しサービス及び日頃の職員の対応の満足度は、それぞれ80パーセントを越えており、日頃の職員の対応については、「満足」が89.9パーセントと高い評価を得ることができた。一方、調査で寄せられた意見や要望については、個別具体的な対応も含めて、今後ともより一層の工夫を重ねていきたい。(別紙「令和7年度利用者アンケート集計表」参照)

今日、視覚障害者を取り巻く情報環境のデジタル化は更に加速しており、職員は新たな情報機器の操作についての情報収集や技術の習得に努めてきた。情報機器に関する利用者からの相談対応や 아이폰の操作体験、視覚障害者のICT活用に関する研修会の開催など、利活用に対する支援を随時行っている。日常生活用具や補装具についてはセンターでの常設展示、ピックアップコーナーの設置、広報誌センター通信での定期的な記事掲載を行い、利用者や関係者に体験や情報提供の機会を提供したほか、昨年に引き続き好評を得た地域に向いての相談会を各地で行った。

また、サピエ会員登録についての相談支援や手続き代行、新規の利用者にデジライターの専用再生機を貸し出すなどして、技術の進展に沿った支援を行ってきた。

情報化対応などの利用者のニーズに応えるため、研修会や大会に積極的に参加したほか、内部研修などを行い職員の資質の向上を図った。利用者や支援者からの一千件超の相談対応のほか、11月開催の「あいさがあすなろフェスタ」では地域の中学校や就労継続事業所、防災士会等に協力いただくことで、利用者だけではなく一般からも多数の来場者を得て、利用拡大や交流・啓発の大きな機会となった。

これらのほか月一回のテーマ別のサロンの開催、公共図書館や支援機関、医療機関への啓発を積極的に行い、夏休みに児童を対象とした点字体験・録音体験イベントを新規に開催するなどし、来館者は前年度の水準を維持した。

図書の貸出では、館内貸出(来館)が増加したものの、相互貸借や郵送貸出の減少が見られ、全体では微減となった。また、サピエ登録者は前年から3名増加した。インターネットを介しての点字データおよびデジライターのデータのダウンロード数については、点字、デジライターの、マルチメディアデジライターのすべての実利用者数が増加に転じ、特にデジライターのデータについては3つの項目で前年度から増加となった。

これらもふまえて、事業実績において、80パーセント以上の自己評価を行うことが可能であると考えられる。

令和7年度は、これまで3年間の様々な取り組みを振り返り、新たな1年目としてより利用者に沿うサービス、運営を考える年となった。8月の「オープンプレイルライブラリー」開催など対象を絞ったイベントによる啓発や、佐賀市立図書館での一般向け研修、公共図書館に対してのバリアフリー啓発等、3年間の気づきや課題を基に様々な試みを行った。また日々のリクエスト及び相談などを通して、様々なニーズに耳を傾けるなど利用者との緊密な関係を維持し深めてきた。今後とも、利用者の様々な意見や要望を反映しつつ利用者の満足度を上げながら、新たなニーズと時代に即応した情報提供施設を目指していきたい。

【 令和7年度 利用者アンケート集計表 】 (％は回答数による割合)

集計数 100 名

質 問																回答数	回答率								
1	回答者の年齢	A 20歳未満		B 20歳代		C 30歳代		D 40歳代		E 50歳代		F 60歳代		G 70歳代		H 80歳以上		100	100%						
		2	2.0%	1	1.0%	2	2.0%	6	6.0%	9	9.0%	26	26.0%	39	39.0%	15	15.0%								
2	センターの利用状況	A 利用している		B 登録のみで利用したことがない		C 以前利用していたが、最近利用していない																100	100%		
		87	87%	5	5%	8	8%																		
3-1	利用方法 (複数回答)	A 郵送貸出		B 巡回貸出		C 来館貸出		D インターネット																113	
		56	49.6%	27	23.9%	7	6.2%	23	20.4%																
3-2	利用図書 (複数回答)	A 点字図書		B 音訳図書 (カセット)		C 音訳図書 (デジジー)																89			
		13	15%	2	2%	74	83%																		
4	利用したことがない理由	A 自宅等からセンターが遠い		B 自身が望むサービスがない		C その他																4	4%		
		2	50.0%	0	0.0%	2	50.0%																		
5	最近利用していない理由	A サービスの使い勝手がよくない		B 自身が望むサービスがない		C その他																3	3%		
		0	0.0%	0	0.0%	3	100.0%																		
質 問		A 満足		B ほぼ満足		C やや不満		D 不満																回答数	回答率
6	貸出サービスについて	60	78.9%	15	19.7%	1	1.3%	0	0.0%															76	76%
7	センター通信や九視情協新刊案内等について	68	82.9%	14	17.1%	0	0.0%	0	0.0%															82	82%
8	職員の対応について	80	89.9%	9	10.1%	0	0.0%	0	0.0%															89	89%
9	その他																								